

報告日: 4月9日(木) 於: 京田辺校地
報告者: 法学部政治学科 2007 年度生 小林将大

－政治学とは何か－

目次

- 0、はじめに
- 1、政治とは何か
- 2、学としての「政治学」
- 3、私の関心と政治学
- 4、おわりに
- 5、参考文献

0、はじめに

1、政治とは何か

1-1), 「政治」の持つイメージ

a, 道德との関連で

- ・徳知主義(理想主義的); 道德>政治
⇒「修身齐家治国天平下」

- ・マキャベリズム(現実主義的); 政治>道德

⇒君主、為政者は約束を守らなくてもいい(目的のためならば手段を選ばず)

b, まとめ

⇒政治は矛盾したイメージをもつ

1-2), 政治とは何か

politics=ポリスに関係すること

a, キーワード

- ・権力
- ・正当性

b, 社会との関係から

- ・社会では利害、価値観が対立=希少価値を巡る対立
- ・この対立に対して、権力を使って解決
⇒秩序が維持される、みんなが共存できる

c, まとめ

- ・政治とは「異なる利害や価値観が存在する社会の中で生じる対立をなんらかの正当性をもった権力を用いて、調整、緩和、強制することで解決することによって、社会の秩序を維持、形成していく人の営み」といえる

報告日： 4月9日(木) 於：京田辺校地
報告者： 法学部政治学科 2007 年度生 小林将大

1-3), 論争

権力、デモクラシーを巡る議論、われわれの範囲 etc...

1-4), 小括

2、デモクラシーについて少しだけ考える

2-1), シュムペーターのデモクラシー

a, デモクラシー；論争的

「民主主義という言葉はある種の魔法の言葉である。誰も『民主主義』に反対することはできない。すべての人々が『民主主義』に賛成する。だが、現実には、すべての人々が『民主主義』に賛成しながら、すべての人々が『民主主義』を巡って対立することになる」。(白鳥令編『現代世界の民主主義理論』1984、p1)

b, シュムペーターのデモクラシー(『資本主義・社会主義・民主主義』(1942))

・「多数者による決定」を「多数者による決定者の決定」におきかえる

2-2), デモクラシーと民意

a, 選ぶ基準

- ・何を基準に選ぶか
⇒業績投票(フィオリーナ)
- ・「業績」を判断する基準は？
⇒メディア？テレビ、新聞・・・

b, 民意

- ・世論調査とは何か
- ・世論調査はなんぼのものか
世論調査が対象にする世論
前提(P. ブルデュー)「世論なんてない」
- ・世論調査の影響
次の首相選びに大きく影響 (柿崎 2008)

c, 輿論と世論

- ・両者の区別
輿論；
世論；
ことばの問題？

「敢えて自覚的に輿論と世論を週別して使う必要性を訴えるのは、世間の雰囲気(世論)に流されず公的な意見を自ら荷なう主体の自覚が、民主主義には不可欠

報告日： 4月9日(木) 於：京田辺校地
報告者： 法学部政治学科 2007 年度生 小林将大

だと考えるからである。」(佐藤 2008、p39)

2-4), 小括

- ・ 輿論の欠如はいかなる帰結を生むのか・・・
- ・ 輿論の復興；輿論と世論を区別しようとする努力

3、学としての「政治学」

3-1), 科学的方法論とは

- a, 独立変数と従属変数
- b, 計量的手法

3-2), 3-1 の方法論を用いて

- a, 研究計画；資料 1
独立変数；①権力闘争の度合い、②首相の能力、③制度
従属変数；人的リソース(人的リソースの数値化を断念し、政権存続年数を用いた)
- b, 研究結果；資料 2
⇒独立変数、従属変数を厳格に設定して思うような結果を得るのはなかなか難しい・・・／例が悪い

3-3), 科学的研究か規範的研究か

- a, 河野一大嶽対談
- b, 両者の関係はどうあるべきか

3-4), 小括

4、おわりに

5、参考文献

1 章に関わるもの

- ・ 馬原潤二「政治学入門」2007 年度春学期講義

2 章に関わるもの

- ・ 辻康夫、松浦正孝、宮本太郎[編]『政治学のエッセンシャルズ』(北海道大学出版会、2008 年)
- ・ 岡崎晴輝、木村俊道[編]『はじめて学ぶ政治学』(ミネルヴァ書房、2008 年)
- ・ 佐藤卓巳『輿論と世論』(新潮社選書、2008 年)
- ・ 柿崎明二『「次の首相」はこうして決まる』(講談社現代新書、2008 年)

3 章に関わるもの

- ・ 高根正昭『創造の方法学』(講談社現代新書、1979 年)。
- ・ 河野勝、大嶽秀夫「政治学は現実政治にどこまでかかわるべきか」論座 2008 年 10 月号

報告日: 4月9日(木) 於: 京田辺校地
報告者: 法学部政治学科 2007 年度生 小林将大

資料①

研究計画

安倍政権はなぜ崩壊したか

— 強固な人的リソースを形成するもの —

1、なぜ崩壊したか

崩壊⇒人的リソース×(ジャーナリストらの指摘)

人的リソース=党要職、閣僚、首相補佐官、官邸スタッフ(官僚・学識者)

2、研究の重要性

3、自説

① 権力闘争の度合い⇒人的リソースの強固さ

4、代替仮説

②首相の能力説

③制度説

5、因果メカニズム

①権力闘争がない→単に仲良しではない強固な人間関係が構築されない→政権運営という
厳しい環境の中、首相を支え、協力してやっていくことは困難→崩壊

②首相の能力が×→その下に集まってくる人間も×→崩壊

③首相を助けるスタッフを供給する制度的なものが不十分→集まるスタッフ×→崩壊

6、実証・反証

人的リソースの強固さ;政権存続年数に表れると考える

①権力闘争の度合い→党要職経験回数・閣僚経験数/当選回数+総裁選が出来レースかどうか

②首相の能力→出身大学のレベルなど

③制度→法制度/小泉と安倍の比較

①、②に関しては過去の首相(自民党)との比較を行う

権力闘争→中選挙区時代(90s 頃まで):強 /小選挙区時代(90s 中頃から):弱